

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-3-3
国際化と多文化共生の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 文化国際課長 日下 純子 電話番号 0852-22-6006

事務事業の名称	次世代人材育成のための青年派遣・交流事業		
目的	(1) 対象	島根県の青年	
	(2) 意図	次世代を担う国際感覚を備えた青年を育成する	
事業概要	姉妹・友好交流先からの青少年受け入れ、県内青少年の同地域への派遣による相互交流を通じて、次代を担う若者の国際感覚を養成するもの。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	島根県が関わる青年交流事業の参加人数	目標値	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	人
	式・定義	「交流の翼事業」、「青年海外派遣事業（内閣府）」の参加青年数	取組目標値						
			実績値	11.0	14.0				
			達成率	55.0	70.0	-	-	-	%
2	指標名		目標値						
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	8,796	9,157
うち一般財源 (千円)	2,796	3,157

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

近年、参加者数が減少しており、海外に目を向ける若者が減少傾向にあるように見受けられる。特に中国・韓国との交流事業については、政治状況やメディア等の影響もあり、参加者が低調である。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

島根プログラムでは、国際交流経験が少ない大学生7名が参加し、ホスト国代表として外国からの参加青年の受入や交流プログラムの企画・運営に携わるなど、自ら考え行動する力を身に付け、次世代を担うリーダーを育成することができた。
寧夏プログラムでは、大学生3名が参加し、現地において北東アジア地域の各国の青年と共に文化交流を行い、国際感覚を身につけることができた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

次世代を担う青年の応募が少なくなっている。

②困っている状況が発生している「原因」

事業を募集する際の広報手段がホームページのほかは、大学等へのチラシの配布程度に限られている。
また、参加者募集の主なターゲットとなる県内の大学においても、同時期に同種のプログラムを実施しており、参加希望者が分散してしまう。事業の魅力が十分に伝わっていない可能性も考えられる。

③原因を解消するための「課題」

多数の交流事業の中に埋もれないような訴求の仕方、広報の工夫が必要であるほか、国際交流事業に興味を持つ学生を増やすことが課題である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

県内でも在住外国人が増加しているなか、多文化共生の観点からも若者が国際感覚を身につけることは必須であり、将来の島根のためにも継続して取り組む必要がある。
参加者の募集の際には、県内大学等へ連携・協力を働きかけるとともに、より事業の魅力が伝わるよう、動画やSNSにアップする等広報に工夫するほか、過去の参加者（他事業含む）のネットワークなども活かし、参加者の増加につなげるよう努める。